

遠山の森林鉄道 梨元貯木場跡

木材景気を呼び込んだ林鉄

梨元に営林署の貯木場が設けられ、木材を運び出すために使用された鉄道(1944(昭和19)年~1968(昭和43)年)。民間企業(5社)も、台車1台あたりの契約で営林署に使用料を払い、伐り出した木材を自社の機関車で運んだ。いずれも1965(昭和40)年ごろまでに事業を終えて撤収したが、土場の施設は1970(昭和45)年まで使用されていた。民間企業が伐採した木材を、営林署が運び出すのではなく、営林署に軌道使用料を払い、複数の企業が自前で列車を走らせていたという例は非常に珍しい。沿線ではインクラインが木材伐り出しに活躍した。鉄道は遠山川上流の西沢渡まで伸びていた。



「夢をつなごう遠山森林鉄道の会」ができ、2012(平成24)年11月18日には「梨元でいしゃば」に復元したレールに機関車を走らせた。

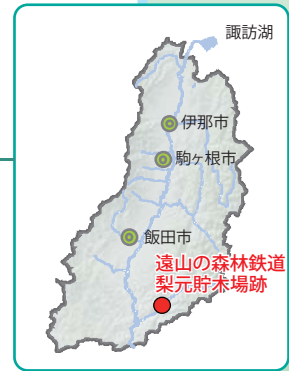
information

□ アクセス

飯田山本ICから50km
車→1時間50分

□ 所在地

飯田市南信濃



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)

セメント
輸送

遠山川および北又沢の水源地域における森林伐採は、山の荒廃と、大量の土砂が遠山川に流れ込む結果をもたらした。災害防止のために北又沢に砂防ダムを建設することとなり、1966(昭和41)年から工事のためにセメント輸送用の列車を走らせた。

インク
ライン

鉄道の入れない急斜面に、ケーブルカーのように線路を敷いて、車両をワイヤでつなぎ、片方が上がれば他方が下がるようにしたもの。それを利用して木材を運び出した。森林鉄道の本線(北又沢左岸の上段)からインクライン上端まで400mの標高差があり、全国でも有数の規模であった。

